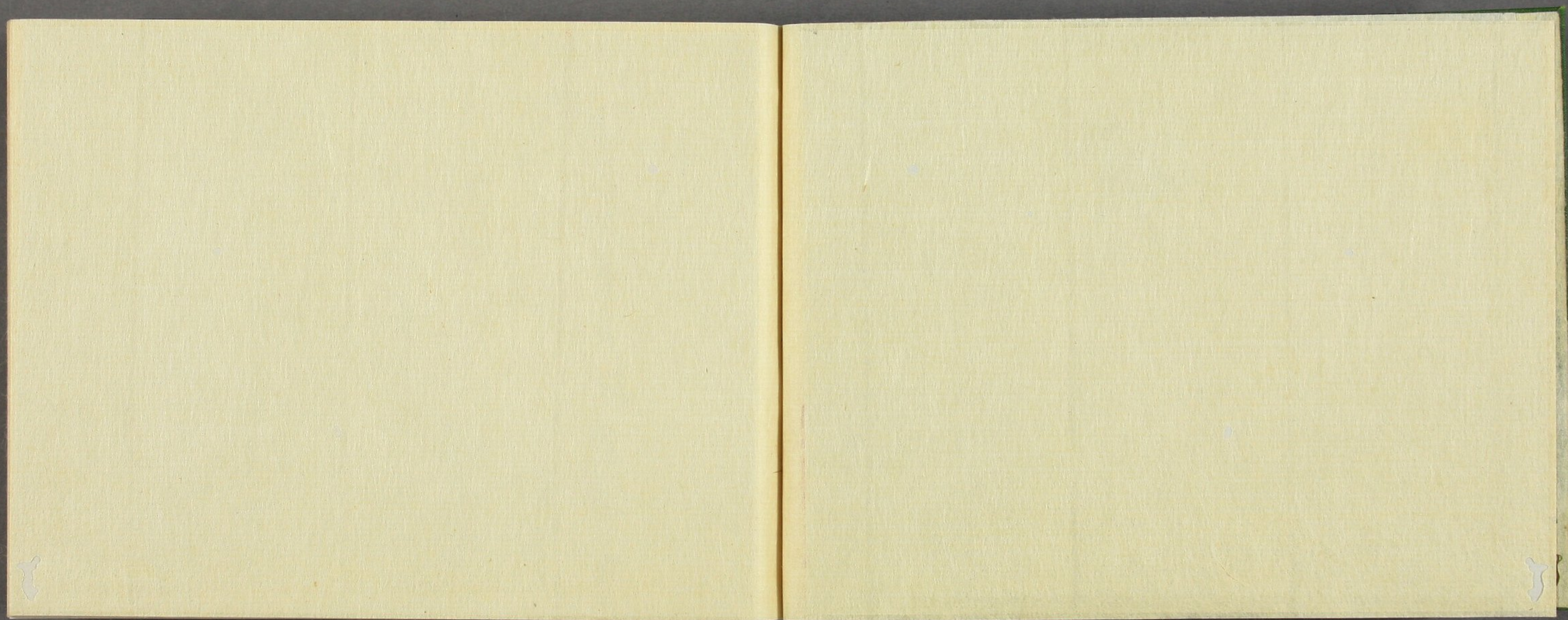




砌









明石

卷名以序并詞為卷名  
<sup>報</sup>あけさうありの海潮の  
とほやとくを思らるる家  
世をくまへ海潮より明石  
うつらひぬけり  
源氏廿六方三月より廿七  
の碓氷系はまやうのむら



なまむすび

三月十日より同十三日まで

凡るやまを神らあはれ

にたむすびのまはらむ

日まうらひのね

十のちまうらひのね

と物まうらひのね

は所大したはくを味す

つた遷のまはらむ

物らあはれまうらひのね

凡るのまはらむ

思ふ

まうらひのね

方へ行昔也

都と出奔ある

の難ある

為者とも

心はよ

も

ま



仍き又なるのこるる程  
心つようもえは新らるる  
うらやまを 派印し行軍の  
あしと我と勢店の人から  
三つねとも降ぬのよるまは  
日影のま塚しかあふつる  
人しをれしを事

伊周公長徳二年四月廿日  
有事方近太宰権帥進  
之向為進罪科出家各

依病苗播磨西而同年  
十月八日権帥晏々入京仍  
弟遠右衛門佑平維時追遣  
太宰府同三年十二月廿返  
而入洛

これよりゆかり  
源氏から入ぬるる浪流  
をまわし流しに又海軍の  
入給し人のいふまゝに  
るるく—のり—



御差も 御磨の妻  
差のやうにねえさくみえ  
ねえさく

ねえさく

御磨の妻もねえさく  
と云う事也

ねえさく ねえさく  
ねえさく ねえさく

ねえさく  
ねえさく

二重流 ねえさく 御磨の使也

ねえさく ねえさく

ねえさく ねえさく

ねえさく ねえさく

ねえさく ねえさく

ねえさく ねえさく

ねえさく 御磨の妻也

ねえさく 御磨の妻也

ねえさく

ねえさく 御磨の妻也



新まきものくまのり  
かきまのり  
今限のり  
人っ行  
園義善の輝  
かきまのり

まきのり  
園のり  
かきまのり  
かきまのり

かきまのり  
かきまのり  
かきまのり  
かきまのり  
かきまのり  
かきまのり  
かきまのり  
かきまのり  
かきまのり  
かきまのり



ふかきもふかき

ふかきもふかき

ふかきもふかき

ふかきもふかき

源のふかき

京も

此使のふかき

仁王會

仁王會

仁王會

仁王會

仁王會

七難は日月

失度廿八者失度火風

旱雨兵乱也

仁王經云誨法般若波羅

蜜七難昂滅七福昂生

百姓安樂帝王歡喜

而くくくくくくくくくく

使のふかき

非考の

あやふく



いふく 蘭のあけ  
使の神うくし 草なれ  
まがらふし

地のうこ

部うり ひまのあした

氷交りぬし

長和二年三月雷鳴水

降大如梅

弟のいしん 幸若のう

ふれまのう

いふく 蘭のあけ

二葉はより使のう

まじ也

いふく 蘭のあけ

野分あけのあけ

いふく 蘭のあけ

いふく 蘭のあけ

いふく 蘭のあけ

いふく 蘭のあけ

いふく 蘭のあけ







住吉明神身往来之船故  
神功皇太后新羅平治時  
船名船也

これより舟に船形之船を

申すも此也

舟の作人として

須磨左近の舟と云ふ

雷丸の難と云ふと云ふ

ては云ふ

まゝおぼる

日記

船も在る人なり其中に

すうはりのつれ人なり

いふ

と云ふ人なり

と云ふの 是より海女の

罪なきよりと云ふ所

初らり

ゆうと云ふこと 慈の心

初らり

天八洲 日記



百 春 節 と あやめ 行く  
のろこや 梅の ぬき され

とあり

ララボ  
ぼろい

てんち 天地とまらむ

うーい

家とまれ

離家三月 流百千行

下事皆如 時仰被養

くまーい

いふは命のしんじん  
あぢめむすこおのり

みわーい 作也

たりまむし

御殿よつ

ぼろい

間 ぬきあはせ

了ら



おのいよの大炊殿雑舎に  
舎事とてさる所也

上下ともく

らくらくく 或 乱のさき

うらやまをよらやん

帰来倚杖自歎息 俄頃

風定雲里色 杜詩

桂嶺瘴来雲似畫 洞庭

春晝水如天 柳書唐

うらの人乃かさうらう

雷の縁なきうらう

あふの糸わさうらう 杜

あふ中さうらう 杜

よひあうらう

は難舎うらう 杜

あふ 手書

あふ 手書

あふ



月一いつく 載 おもひのき

とふゆふいあるいぢぢぢぢぢぢぢ

とふゆふとふあいつぢ

難舎の室門也流のぬ

静し優なる静し

とふとふ か ちぢぢぢぢぢ

まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

人よぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢ

蘭考人のぢぢぢぢぢぢぢぢ

月もぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

あいつあいつあいつあいつ

えぢぢぢぢぢぢぢ

海まじもぢぢぢぢぢぢぢぢ

とふ人ぢぢぢぢぢぢぢ

とふぢぢぢぢぢぢぢ

あぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

とふぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

海ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

おぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ



かゝるもれにたゞしからふ  
恒古明神の日向の櫓の  
塔後より浮らぬわづら神  
ちりたりと海もまじ神と  
中より大海の舟に馳せに  
新もえぬわづらわづら  
新もえぬ神とくまの海  
あまたのわづらわづら  
深きくまのわづらわづら  
日本紀よりあはせ

わづらわづら 日向の櫓の  
念箱 ぬらぬらわづら  
わづらわづら 日向の櫓の  
わづらわづら  
わづらわづら 日向の櫓の  
わづらわづら  
わづらわづら 日向の櫓の  
わづらわづら  
わづらわづら 日向の櫓の  
わづらわづら  
わづらわづら 日向の櫓の  
わづらわづら



〜神〜

〜神〜

酒の愛に 桐葉の (桐葉の)

市 神の (神の)

〜神〜

〜神〜

明 神の (神の)

〜神〜

〜神〜

〜神〜

差中に 神の (神の)

〜神〜

〜神の

〜神の

〜神の

〜神の

〜神の

〜神の

〜神の

〜神の



あふくまふり

あふくまふり  
あふくまふり  
あふくまふり

あふくまふり

あふくまふり  
あふくまふり

あふくまふり

あふくまふり

あふくまふり

あふくまふり

あふくまふり

あふくまふり

あふくまふり



ふあけぬお月のおめい

うらの初めし

松子美の夢本白詩

落月満屋梁福疑見顔

急もつるらんころり

雨もさむらぬらんころり

とくに此詩よく叶り

そころりあめころり

海入あつたころり

作あつたころり

事あつたころり

かゝるころり

あるころり

かまわり

よくあつた

うら 雷雨はあつた

あつた

ころり

あつた

園内素の素



まぢらるー

年  
けふは女房の由緒と事なす人  
本ありのありとゆき  
かとの事とと語の指差  
三のよまきとあはれ  
佐吉の神はなると  
とわ母のつげ浦と  
と若ぬりと事なす人  
くまのつげ浦と  
りらるー

中くりる 後のみぢらる

まぢらるもつたうと  
こらーくまのつげ浦と  
のつげ浦と  
あはれと

ちとらるー 十三日也

あーの  
まぢらる 新敷也

まぢらるのつげ浦と  
まぢらる



源少納言 良清也  
あゝのんよらよらとらふ

さくいと 得意 知事也  
良清之入播磨守なり  
後より也  
あゝのんよらよらとらふ  
あゝのんよらよらとらふ  
あゝのんよらよらとらふ

彼のまらふ  
あゝのまらふ物味  
あゝのまらふ  
あゝのまらふ  
あゝのまらふ  
あゝのまらふ

名の御後 名母也  
あゝのまらふ  
あゝのまらふ  
あゝのまらふ  
あゝのまらふ  
あゝのまらふ  
あゝのまらふ



三月日巳の日後

日記の

是より入るの細

松屋の

物も信じておれ

はういよ 須藤の海

いよ

いよいよ 丹

須藤の海

いよいよいよ

いよいよいよ

いよいよいよ

いよいよいよ

いよいよいよ

いよいよ

殿

史記殿本紀

思復興殿而未得其信三年

不立言政事決定於家室

親園内



名曰說以夢所見視群臣  
百吏皆非也於是使百  
工禁求之野得說於傳  
險中是時說為胥靡  
築於傳險見武丁武丁曰  
是也得而與之語果吾人  
舉以為相說圖大治故遂  
以傳險姓之號曰傳說  
もらるるを 神の用れ  
さるる及是非と也

いまめり日 ち日あ  
とあかき ちあき

あささ 不思議の神  
あささ

神のいふは波風舟と  
ちさるるに波風の  
ちさるるに波風の  
みねるも也  
あささ 不思議の神  
あささ







政道の事はよく知られ  
あつた事だ

うらなひ

おのれは世にあらざらん

うらなひ

おのれは世にあらざらん

おのれは世にあらざらん

おのれは世にあらざらん

うらなひ

おのれは世にあらざらん

官位禄を高くし  
その

おのれは世にあらざらん

おのれは世にあらざらん

うらなひ

おのれは世にあらざらん

おのれは世にあらざらん

おのれは世にあらざらん

おのれは世にあらざらん

おのれは世にあらざらん

うらなひ



あつちからとて

本文了考

つらつらとて信と信

あつちからとてあつち

人のえんあつちあつち

あつちからとてあつち

あつちからとてあつち

あつちからとてあつち

あつちからとてあつち

あつちからとてあつち

あつちからとてあつち  
あつちからとてあつち  
あつちからとてあつち

あつちからとてあつち

あつちからとてあつち

あつちからとてあつち

あつちからとてあつち

あつちからとてあつち

あつちからとてあつち

あつちからとてあつち



Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.



高津のむらじり石の驛  
家駒平御井の楠木と  
も船はつらき其舟のあ  
るさすしおの女一梶  
七浪とあはしりるわが  
其舟とあはしくこゝろ

明石海らちんをわが  
とらちんはわがふん  
あは——わが  
よのふらちんをわが

あはらき入るこゝろ  
あはらき  
人とおく浪無ら  
く——わが  
ら——らちんをわが  
前橋麻呂らちんを  
あはらきこゝろを  
あはらき一梶  
あはらきこゝろを  
あはらきこゝろを



いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま

いねのくま



月ころれ 酒磨<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup> 徳<sup>トク</sup> 招<sup>サウ</sup>

古きくらしも 酒の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

き<sup>キ</sup>に<sup>ニ</sup>都<sup>ト</sup>の<sup>ノ</sup> 酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>

酒<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>



——乃 ちか ちか

つらぬま 海 うみ の 波

ニ あ 波 なみ 波 なみ 波 なみ

あ な ち か ち か ち か ち か

な な ち か ち か ち か ち か

ち か ち か

ち か ち か ち か ち か ち か

ち か ち か ち か ち か

ち か ち か ち か ち か ち か

ち か ち か ち か ち か

ち か ち か ち か ち か

ち か ち か

ち か ち か ち か ち か ち か

ち か ち か ち か ち か ち か

ち か ち か ち か ち か

ち か ち か

ち か ち か ち か ち か ち か

ち か ち か ち か ち か ち か

ち か ち か ち か ち か ち か

ち か ち か ち か ち か ち か

ち か ち か ち か ち か ち か

ち か ち か







Handwritten text in cursive script on the left page, featuring several lines of text with red ink accents. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in cursive script on the right page, continuing the style from the left page. It includes several lines of text with red ink accents, maintaining the fluid, connected cursive style.







たをいふに **すけ** **すけ**

すけ **すけ** **すけ** **すけ**

すけ **すけ** **すけ** **すけ**

すけ **すけ** **すけ** **すけ**

すけ **すけ** **すけ** **すけ**

すけ **すけ**

すけ **すけ** **すけ**

すけ **すけ** **すけ**

すけ **すけ** **すけ**

すけ **すけ** **すけ**

すけ **すけ** **すけ**



ねんねんねんねん

勤行にやとけりあはれ

あつるる 高者

ふたのちりりりり

やんねん

ふりりりりり

ふりりりりり

ふりりりりり

ふりりりりり

先代人物

ふりりり

ふりりりりり

ふりりりりり

ふりりりりり

ふりりりりり

ふりりりりり

ふりりりりり

ふりりりりり

ふりりりりり

ふりりりりり



ゆるゆると

勤行にかたをけりて

あつて 高貴也

ふたのちりて

かこりて

ゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆると

先代人物

ゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆると







宵月一更にたは田島松  
夏の間と菊色は長藤  
かよふらんかき事し入石  
文名の具を調をすは也  
いふもいふにたはし  
非名の具を調をすは也  
あつたはしはしはしはし  
すはしはしはしはしはし  
入らんかき事し入石  
かよふらんかき事し入石

かき事し入石  
あつたはしはしはしはし  
のたはしはしはしはし  
かよふらんかき事し入石  
かよふらんかき事し入石  
かよふらんかき事し入石  
かよふらんかき事し入石  
かよふらんかき事し入石  
かよふらんかき事し入石  
かよふらんかき事し入石



はらへしむへ ちんまへん  
たもあへく ちんまへん  
ちんまへん

ちんまへん 清路島前石  
よらへん

あへん

あへん ちんまへん ちんまへん ちんまへん  
ちんまへん

あへん 阿波渡し ちんまへん  
あへん

あへん ちんまへん ちんまへん ちんまへん  
清路島の ちんまへん  
あへん 初学とあへん  
ちんまへん

あへん 清路島の ちんまへん  
あへん ちんまへん ちんまへん  
あへん ちんまへん ちんまへん  
あへん ちんまへん ちんまへん

あへん ちんまへん ちんまへん  
あへん







仍哲言不傳人亦不言其

姓字

ねらう ねらう ねらう ねらう

ねらう ねらう ねらう ねらう

ねらう ねらう ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう

ねらう ねらう



え留を以て 偈を以てして  
くわくがく 供養法也

三密六度の行法也

三密の自身言の密也

是と云ふ事也

六度と云ふは 羅密也

はらへんがく 入念の

縁ら縁ら 極樂也

極樂の善縁等々の

并の事也

はらへんの 縁を以てして

はらへんがく也

はらへんがく 縁を以てして

はらへんがく

はらへんがく 縁を以てして

はらへんがく

はらへんがく 縁を以てして

はらへんがく

はらへんがく 縁を以てして

はらへんがく







予の心はLafayetteの  
心と通ずる事あるを  
己の心と通ずる事あるを  
海軍の心と通ずる事あるを  
Lafayetteの心と通ずる事あるを  
予の心と通ずる事あるを

予の心はLafayetteの  
心と通ずる事あるを  
己の心と通ずる事あるを  
海軍の心と通ずる事あるを  
Lafayetteの心と通ずる事あるを  
予の心と通ずる事あるを

予の心はLafayetteの  
心と通ずる事あるを  
己の心と通ずる事あるを  
海軍の心と通ずる事あるを  
Lafayetteの心と通ずる事あるを  
予の心と通ずる事あるを

予の心はLafayetteの  
心と通ずる事あるを  
己の心と通ずる事あるを  
海軍の心と通ずる事あるを  
Lafayetteの心と通ずる事あるを  
予の心と通ずる事あるを







延喜より三代といふす  
桐壺帝と延喜に唯  
末村後と不承の次門唯  
丁おの延喜よりいつこの代  
とよと不書あるおられ  
不承より中ねんをよあ時  
帝の女中子なる今借る  
よきは借る前之代  
つとてし~~の~~海の時  
ふとておらう

延喜のさかたのまに  
あーとあふ入らぬ  
せんちさ

大正の親とつづつ延喜  
つとておー親と入る  
師りらう

山崎のいひ  
山崎路うとよ只を  
ねあは山林のあは  
ねとておらう















曰琵琶行

我從去年辭帝京

病瘵陽城

無音樂終歲不同

心

年

心

心

心

心

又大絃嘈々如急雨  
小絃切々如私語  
嘈々切々錯雜彈  
大珠小珠落玉盤  
同南其聲格花  
泉流冰下灘  
又由收撥當心  
畫四絃  
一齋如別家  
東好  
心



きつるにきつるをきつる  
きつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつるをきつる

あつるをきつるをきつる



伊勢海をくぐりて  
いよのちの 船をいりて  
くちあつて 船也

かきい

年 根本命婦石川也  
筑紫唐の過唐人傳奉  
授官平正はしこ見了海  
船は苗世あつて  
唐人の舟あつて  
船

舟の船は  
しつて  
船

伊勢の海  
あつて  
伊勢海  
伊勢海  
伊勢海  
伊勢海  
伊勢海  
伊勢海







新編のまじりし神仏のあえ  
わすれぬまじりたるまじりたる

この十八年こりり後

新編のまじりたるまじりたる

まじりたるまじりたる

女のまじりたるまじりたる

まじりたるまじりたる

明石とまじりたる

六時の六時は晨朝日中

日没初夜中夜後夜也

今月の後世のまじりたる

後のまじりたるまじりたる

まじりたるまじりたる

まじりたるまじりたる

まじりたるまじりたる

まじりたるまじりたる

まじりたるまじりたる

まじりたるまじりたる

まじりたるまじりたる

まじりたるまじりたる











飛あはらぬやあはれ早か  
しんたふし

ふしんたふし

今名のふらふらあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ







よーのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま

よのうまのうま















あまのこころをいかに  
かきとめておくれ  
初め女の書とて  
いづれ纏頭か女の書か  
わすれぬ常れ縁也  
せんかきとめて  
いづれかきとめて  
作のこころをいかに  
かきとめておくれ  
あまのこころをいかに

あまのこころをいかに  
かきとめておくれ  
いづれかきとめて  
作のこころをいかに  
かきとめておくれ  
あまのこころをいかに  
かきとめておくれ  
いづれかきとめて  
作のこころをいかに  
かきとめておくれ  
あまのこころをいかに  
かきとめておくれ  
いづれかきとめて  
作のこころをいかに  
かきとめておくれ  
あまのこころをいかに  
かきとめておくれ







Handwritten cursive text, possibly a signature or name.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.















新し

海老のすまゝのいふ

おのこ地也

おのこ地也

おのこ地也

おのこ地也

あぢるゝ おのこ地也

おのこ地也

おのこ地也

あぢるゝ

周禮六夢 一曰正夢 二曰

惡夢 三曰思夢 四曰懼夢

五曰喜夢 六曰懼夢

おのこ地也

朱羅院の同いふ

おのこ地也

おのこ地也

おのこ地也

おのこ地也



由よふまよふまよ さい大匠也  
ねらふまよふ 二業相也也  
おねのまよふ

つさくま ちぬまのぬ

まらふまよふまよふまよふ

まらふまよふ 圃人の死まよふ

ちまふまよふまよふまよふ

まらふまよふまよふまよふ

ちまふ ちぬまのぬ

ゆらふまよふまよふまよふ

朱音音音也世の匠者  
以眼物又おねの物也  
ねらふまよふの匠

おねの匠の匠

ゆらふまよふまよふまよふ

ちまふまよふまよふまよふ

まらふまよふまよふまよふ

ちまふまよふまよふまよふ

ちまふまよふまよふまよふ

ちまふまよふまよふまよふ



罪に科せられたり

三とも記した

令書獄令曰凡流移人至

配所三載以後聽仕即

本犯不應流而特配流者

三載以後聽仕

今東流移の人と流罪

せられたる人といふは

の流に受てたる人す

ゆゑに流罪の事と

及ばざる人の事と流

せられたる二年の後つ

本事をゆゑに今流罪

あはれたる事あり

されたる久しく六年

三年といふ仕ある

三とも記したる事と

し

二年

ははるる人



漢高祖の孫帝太子朱稽流  
武帝にゆく似たり武帝仁弱  
なりと史記にありけり朱稽流  
御らぬらくたり  
高祖崩せぬ後呂氏の  
侍らぬとて忠たぬ  
罪せぬ  
此れやとも朱稽流太子  
なり

朝の事いふに  
心いふに  
楊子  
さく  
女  
わ  
源  
中  
は  
る















あつて 今の昔の撰り  
さくねるさくねる

入るさくねるさくねる

あつて 母の何となく

恐怖 うる 間の撰り

さくねる あの撰り

あつて あの撰り

十の 日の 十の 日の 十の 日の

あつて あの撰り

あの あの あの あの あの

あつて あの撰り

あつて あの撰り

あつて あの撰り

あつて あの撰り

あつて あの撰り

あつて あの撰り

あつて あの撰り

あつて あの撰り

あつて あの撰り

あつて あの撰り



いさよへ 何しんやう

あはれにわたりてふらん

あはれに

あはれにわたりてふらん

あはれにわたりてふらん

あはれにわたりてふらん

あはれに

あはれにわたりてふらん

あはれにわたりてふらん

あはれにわたりてふらん

あはれにわたりてふらん

あはれに

あはれにわたりてふらん

あはれにわたりてふらん

あはれに

あはれにわたりてふらん

あはれに

あはれにわたりてふらん

あはれにわたりてふらん

あはれにわたりてふらん



はくわらむ ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ

海の小い ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ  
三味堂 ちかむ ちかむ ちかむ

（一）

ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ

ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ

定家の子 ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ  
ちかむ ちかむ ちかむ ちかむ











~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~















二条の道に上る

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは

道に上るは古くは



Handwritten text in cursive script, likely a list or series of entries, with red ink used for initials or accents. The text is written on the left page of an open notebook.

Handwritten text in cursive script, likely a list or series of entries, with red ink used for initials or accents. The text is written on the right page of an open notebook.



Handwritten text in cursive script, likely a list or series of entries, with red ink used for initials or highlights. The text is written on the left page of an open notebook.

Handwritten text in cursive script, continuing from the left page, with red ink used for initials or highlights. The text is written on the right page of an open notebook.











Handwritten text in cursive script, likely a list or account, with several lines starting with red initials or markers. The text is written on aged, yellowed paper.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account from the previous page, with several lines starting with red initials or markers. The text is written on aged, yellowed paper.







Handwritten text in cursive script on the left page, featuring several lines of text with red ink accents.

Handwritten text in cursive script on the right page, featuring several lines of text with red ink accents.











月ころの初は女の手紙  
あはれあはれあはれ

はらあはれあはれ

はらあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ



まゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに



۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱

۱۹۱۱















مَدِينَةُ الْمَدِينَةِ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ

بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ

بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ

بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ  
بِأَمْرِ الْمَلِكِ الْمَعْنِيِّ







Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in black ink with red ink used for decorative initials and accents. The script is a cursive style, possibly Maghrebi or Ottoman. The text is arranged in approximately 12 lines, starting from the right side of the page and moving towards the left.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. The text is written in black ink with red ink used for decorative initials and accents. The script is a cursive style, possibly Maghrebi or Ottoman. The text is arranged in approximately 12 lines, starting from the right side of the page and moving towards the left.







~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~



音の響き

舞臺のまはりの音

つれづれと

うたがう

舞臺のまはりの音

つれづれと

うたがう

舞臺のまはりの音

つれづれと

舞臺のまはりの音

つれづれと

うたがう

舞臺のまはりの音

つれづれと

うたがう

舞臺のまはりの音

つれづれと

うたがう

舞臺のまはりの音







あはれなる心  
と別

あはれなる心  
あはれなる心  
あはれなる心  
あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心  
あはれなる心  
あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心



心より 忘却

— 心 忘却

あつらひのり

中子まはあひのり

あふのりあひのり

中子まはあひのり

あふのりあひのり

あふのりあひのり

あふのりあひのり

あふのり

あふのりあひのり

あふのり

あふのりあひのり

あふのりあひのり

あふのりあひのり

あふのりあひのり

あふのり

あふのりあひのり

あふのりあひのり



之の<sup>し</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
七所<sup>に</sup>仁<sup>徳</sup>天<sup>皇</sup>の<sup>し</sup>跡<sup>は</sup>  
後<sup>の</sup>七<sup>所</sup>の<sup>し</sup>跡<sup>は</sup>

之<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
あ<sup>ら</sup>う<sup>に</sup>仁<sup>徳</sup>天<sup>皇</sup>の<sup>し</sup>跡<sup>は</sup>  
之<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
母<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
子<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後

之<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
母<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
子<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
之<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
母<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
子<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
之<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
母<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後  
子<sup>の</sup>跡<sup>は</sup>と古<sup>より</sup>の<sup>し</sup>後



書を抄録するにあつては  
所を以て抄録せん  
とす

一、抄録

抄録するに當りては  
其の旨を以て

抄録するに當りては

其の旨を以て抄録する

に當りては

其の旨を以て抄録する

抄録するに當りては

其の旨を以て

抄録するに當りては

其の旨を以て

抄録するに當りては

其の旨を以て抄録する

に當りては抄録する

に當りては

抄録するに

抄録するに當りては



人の習性たるもの

は、*the human nature* といふ

*the human nature*

に *the human nature* といふ

は、*the human nature* といふ

は、*the human nature*

は、*the human nature* といふ

は、*the human nature*

は、*the human nature* といふ

は、*the human nature* といふ

は、*the human nature* といふ

は、*the human nature*

は、*the human nature* といふ

は、*the human nature*

は、*the human nature* といふ

は、*the human nature*

は、*the human nature* といふ

は、*the human nature*

は、*the human nature* といふ

は、*the human nature*



定るは是よりいへばの事  
最初はこれほど成るは極  
の事柄にして知らざるは  
位は少くはたおまねて別  
其旨はあたるといへり  
於て由はありぬを

かきとらひぬの指す由は  
~~聊~~有るは大納言二人は其の  
文のよきもの二人のあは  
しむるは極の事柄なり

ついでにさる年遺誠云大納言  
勿過指す二人は遺誠の  
よりさる人になりぬを  
ぬらうはさるる事柄の  
事なりぬは極の事柄なり  
しむるは極の事柄なり  
いふれぬは中はより大納言  
正一人指す人なりぬを  
天武天皇元年改御史大吏  
干時三人為大納言なり



田代  
永訣元年八月始第廿二人  
長和二年第廿五人高倉流  
御宇初為十人  
河海每人一子一子一子  
と指し印とくしとるを  
ふれとらふとらふとらふ  
存たゆとくしと指し印の  
自給これか他とくしと  
つぎくの 中河信孝の令  
かまはるゝ年の

寒灰更暖 枯樹復榮 経年此  
うーあふと 源氏物語 二  
春内一あふと  
移らたさる 河海のさゆ  
はるまはるしゆ 夷軍のす  
をさくく 高倉流 如  
うしとらふ  
河海に對しぬとらふ  
たらふとらふとらふ  
いそりたれ 御あり



十月廿二日の月 八月廿二日  
今月留多也

志願されたるもの事奉るべきに

物ららるる

御名義の事にしては奉るべき

信をたつらるる事

つらるる事にしては奉るべき

あそびにたつらるる事

つらるる事にしては奉るべき

つらるる事にしては奉るべき

つらるる事にしては奉るべき

つらるる事にしては奉るべき

つらるる事にしては奉るべき

つらるる事にしては奉るべき

つらるる事にしては奉るべき

つらるる事にしては奉るべき

つらるる事にしては奉るべき

つらるる事にしては奉るべき

つらるる事にしては奉るべき

つらるる事にしては奉るべき











Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.

Handwritten cursive text with red ink accents.







Handwritten text in cursive script, likely a list or notes, with several lines starting with red ink. The text is written on the right page of an open notebook.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes, with several lines starting with red ink. The text is written on the left page of an open notebook.



Handwritten text in cursive script, likely a list or notes, with several red ink markings and underlines.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or notes, with red ink markings.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or notes, with red ink markings and underlines.







墨付  
百十七枚



